

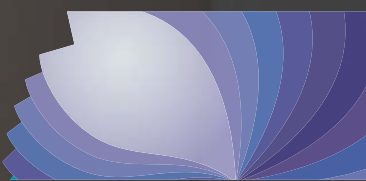


14

メディア

最先端かつ利便性の高いメディア・サービスと施設

- ・9つの競技会場で構成されるクラスターにIBC/MPCを設置
- ・メディア関係者をサポートする最先端技術
- ・メディア関係者の宿泊料金を保証
- ・24時間運行のメディア専用輸送サービス



オリンピック・パラリンピック競技大会を報道する世界のメディアは、オリンピックムーブメントと大会の成功に大きく貢献するものである。2020年東京大会では、IBCとMPCを同一敷地内に設置し、メディアの日本における仕事と滞在にあたって、最高のサービスと優れた環境を保障する。

自由なメディア環境は日本の生活において必要不可欠なものであるが、オリンピック・パラリンピック競技大会の成功においても同じである。したがって、日本国内のメディアと同様に、世界のメディアも、確実、自由そして公正に2020年東京大会を報道することが可能である。

以上のことは、過去の日本でのオリンピック・パラリンピック競技大会、2002FIFAワールドカップ™、2007年世界陸上大阪大会などのスポーツイベントを報道したメディア関係者が経験済みである。

そのような大規模な国際イベントを通じて、日本はメディアに対する施設の提供や、多様なメディア業務の管理において経験が豊富である。2020年東京大会では安定した高速通信を提供し、また信頼性の

高いINFOシステム、記録情報システム(CIS)、超高精細映像機器や、超高速カメラなどの、映像、写真技術の提供ができる。

オリンピックムーブメントにおけるメディア報道の重要性を認識し、大会組織委員会はメディアに対する支援を大会の重要な柱として位置づける。これを受けて、公認の放送局及びメディアには以下のことが約束される。

- ・ 最高で快適なメディア施設とサービス
- ・ 正確かつ迅速な情報(競技結果の速報など)を提供する最新のINFOシステムとCIS
- ・ 予備のバックアップシステムを備えた高信頼度の電力供給システム
- ・ 様々な価格帯で多様な宿泊施設
- ・ 宿泊施設はIBC/MPCや、競技会場の近くに位置している
- ・ 最低必要宿泊日数は設定しない
- ・ 空港、IBC/MPC、競技会場及びホテルをオリンピック・レーン及びオリンピック・プライオリティー・ルートを中心として結ぶ快適で便利な輸送機関の運行
- ・ 多言語のボランティアサービスの提供

14.1 国際放送センター(IBC)とメインプレスセンター(MPC)のコンセプトを、以下の点も含めて説明してください。

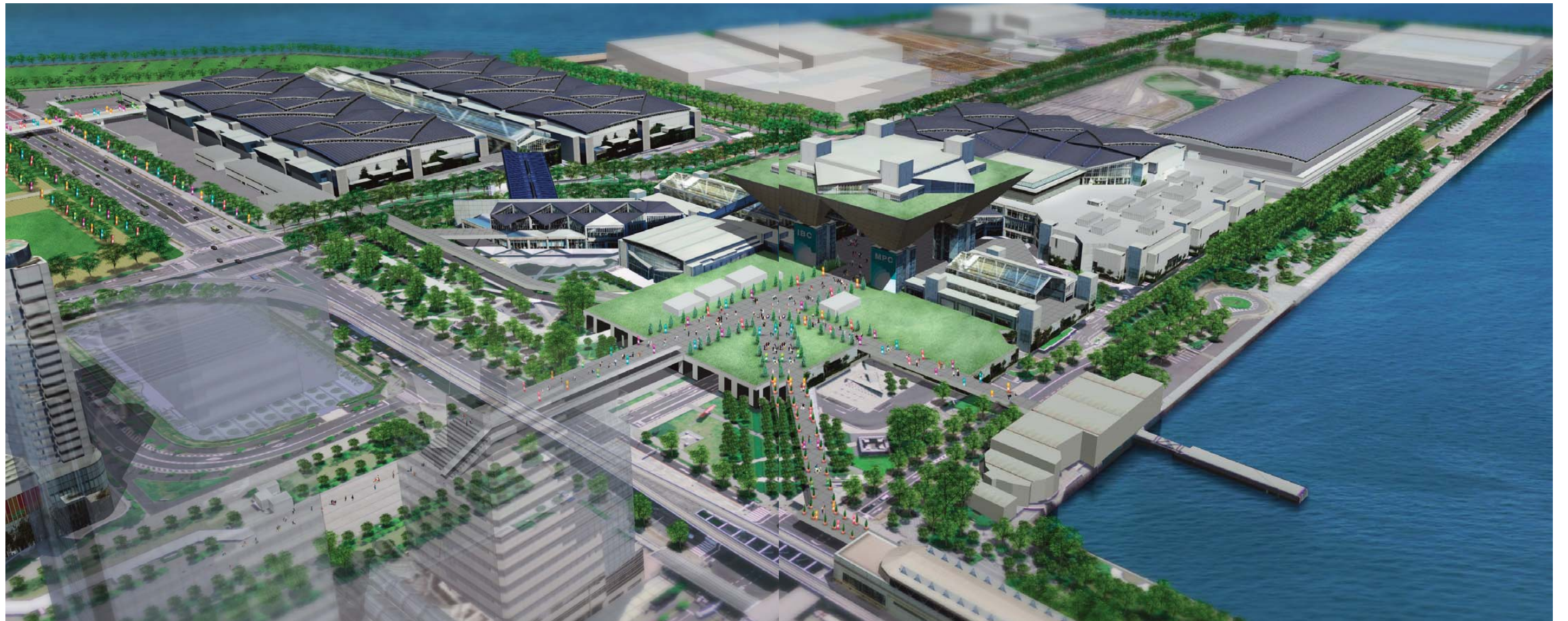
- ・ 所在地、規模、近接する他の施設、輸送拠点、駐車場、施設
 - ・ IBCとMPCは既存の施設なのか新設されるのかを述べてください
 - ・ IBC及びMPC選択の理由を説明してください
 - ・ オリンピック競技大会後のIBCとMPCの利用の意向を、遺産化の検討も含めて明記してください
 - ・ 誰が施設の建設費を調達するのかを明記してください
- 所有権、立ち退き期日も含めた、IBCとMPCの使用と建設に関するあらゆる保証を関係所有者から入手して提出してください。この保証には、OCOGが会場を管理している間は、所有者は、IBCとMPCに関する商業権に関わるあらゆる権利(「クリーンベニューに関する付属書類」に記載されている契約条件を含むが、これに限定されません)をOCOGに与えると述べられていなければなりません。
- 「保証書ファイル様式」の「クリーンベニューに関する付属書類」を参照してください。
- (上記の期日は、IBCとMPCの整備と改修に必要な時間を考慮に入れなければならないことにご留意ください)

IBC/MPCは、東京湾臨海部に位置し、様々な国内外のイベントに利用されている日本最大の国際会議・展示施設である東京ビッグサイトに設置され、大会期間中1日24時間運営される。

本施設内の約143,000㎡がIBC/MPCに割り当てられる。東京都は2020年大会のために、既設の西展示棟南側に延床面積約44,000㎡を増築する予定である。2020年東京大会終了後は、国際会議・展示施設として使用する。

主要なメディア向け宿泊施設は、IBC/MPCから徒歩圏内という非常に便利な位置にある。近隣の既存ホテルに十分な部屋数が確保できるため、メディア村の建設は不要である。

また、東京ビッグサイトは、2020年東京大会のフェンシング、テコンドー、レスリングの競技会場も計画され、IBC/MPCからすぐにアクセスできるようになっている。



IBC

IBCの総面積は約81,000㎡となり、建物の1階と2階を中心に設置される。

東京ビッグサイトの西展示棟と東展示棟内の展示ホール(一区画が90m×90m、高さ31mの無柱空間)の3区画がIBCとなる。テレビスタジオは、各種機材の設置や輸送を考慮して1階に配置される。この施設は放送関係者に最大限の自由度を与えるものである。

IBCでは放送事業者向けに番組製作用の技術的な施設に十分な広さのスペースが提供される。IBCは通常の事務所ビルに備わる性能(断熱、遮音、電源供給、空調、通信施設)の全てを揃えているが、信頼できる高度なサービス提供と放送関連要求を満たすために2020年東京大会の期間中さらに強化する。

また、IBCには10,000㎡のサテライトファームを用意する。

14.1 IBC/MPC配置図



MPC

西展示棟の南側に増築される施設はMPC専用として、延床面積約44,000㎡の3層階で建設される。

共用ワーキングエリアとして約25,000㎡の最先端の通信技術を使った高速インターネット接続が可能な一連のレンタルオフィスが設置される。MPCには車両300台以上の専用駐車スペースが確保される。

共用エリア

IBCとMPCの間に位置する共用エリアは約18,000㎡あり、24時間体制で幅広いサービスを提供する。その中で広がりのあるメインロビーは、インフォメーションデスク、メディア情報センター、コンビニ、フードコート、カフェ、郵便局等、メディア関係者の利便性のための施設を含む。

近接の駐車場は850台分の駐車スペースをIBCに、300台分の駐車スペースをMPCに提供する。また、IBC/MPCの利便性のために約50台のバスが待機可能な24時間運営のバス輸送モールが1階共用エリア横に配置される。

移動の利便性

東京の公共交通機関の利便性の高さにより、15会場については20分程度で到着でき、その他の東京圏の全会場については、5会場を除き、約40分以内の場所に配置されている。

IBC/MPCから利用可能な公共交通には、「新交通ゆりかもめ」と「東京臨海高速鉄道」がある。夢の島は公共交通で10分以内で到着する。この広大なネットワークにより、オリンピックスタジアムパーク、皇居周辺、その他の競技会場、銀座や新宿、浅草など東京のあらゆる場所にも、鉄道や地下鉄で簡単に行くことができる。

信頼性の高い通信環境

IBC/MPCでのダイレクトリンクシステムや張り巡らされたネットワークインフラは、電話、データ通信、音声、画像を含む全てのオリンピック関係の通信の品質、信頼性、緊急時対応、及びセキュリティについて保証するものである。

保証された施設

増築の建設費は、東京ビッグサイトの所有者である東京都が負担する。施設の利用についても、東京都が所有者として保証する。OBSや放映利権所有者がテレビスタジオの設置や機材搬入のために占有できる開始時期は、2019年7月からである。

保証については、保証ファイルを参照のこと。



14.2 メディア向け宿泊施設のコンセプトを簡単に説明してください。(この説明は12.4で提出する一覧表に対応していなければなりません。)

メディア村を利用する予定であれば、その所在地、規模、収容人数、建物の種類(既存、恒久、仮設)、部屋のサイズ、オリンピック競技大会後の使用/遺産化の意向を明記してください。

メディア向け宿泊施設:手頃な料金の客室、最低宿泊日数は設定しない

東京は、メディア向けに十分な客室を、幅の広い価格帯と様々なタイプで確保しており、これらの部屋はインターネットなど必要な通信設備を完備している。

東京の既存のホテルに十分な数の良質な客室を確保しているため、大会組織委員会はメディア村を用意する必要はない。

東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会は、メディア向けに、プライスコントロールされた18,831室の客室を確保している。これらの客室があるホテルの多くはIBC/MPCから至近の距離にあり、専用ハブを含むメディア輸送計画によって、競技会場への交通アクセスが良い。

メディア向け客室のうち2,027室はIBC/MPCから徒歩圏内の距離にあり、メディア向けホテルとIBC/MPC間には、専用シャトルバスが24時間運行する。このように、メディア関連業務にとって非常に良い環境が提供される。

サッカーの予選会場となる東京以外の都市では、競技会場の近くに1,170室の客室を確保している。

最低宿泊日数は、設定しない予定である。

14.3 メディア関係者の輸送について、以下を含めて簡単に説明してください。

空港 ⇄ メディア向け宿泊施設
メディア向け宿泊施設 ⇄ IBC/MPC
メディア向け宿泊施設 ⇄ 競技会場
IBC/MPC ⇄ 競技会場
競技会場 ⇄ 競技会場

迅速で確実なメディア輸送

メディアの輸送サービスは、IBC/MPCを主要ハブとし、メディア向けホテル、選手村及び各競技会場等のそれぞれの目的地に向かうハブ&スポーク方式により、オリンピック・レーン及びオリンピック・プライオリティ・ルートを中心として運行する専用の輸送システムを提供する。

加えて、認定されたメディア関係者には、公共交通機関の無料利用サービスを提供し、円滑な移動を確保していく。

各目的地間の輸送サービスは、以下のとおりである。

空港 ⇄ メディア向けホテル

空港に到着したメディア関係者には、空港・メディア向けホテル間の輸送サービスを提供する。

なお、メディア関係者の荷物移動のためのサービスも提供される。

メディア向けホテル ⇄ IBC/MPC

IBC/MPCの主要ハブを発着点として、メディアホテルプール内を巡回する専用シャトルバスを24時間運行し、メディア輸送の特殊な需要に的確に対応していく。

メディア向けホテル ⇄ 競技会場

IBC/MPCを主要ハブとし、これを補完するためのサブ・トランスポートハブを地理的に利便性のある場所に設置することで、メディア向けホテルと各競技会場を結ぶハブ&スポーク方式による輸送サービスを基本として提供する。

IBC/MPC ⇄ 競技会場

IBC/MPCハブと競技会場を運行する専用の輸送サービスを提供する。なお、競技スケジュールと会場のメディアセンターの業務時間に従って運行する。

競技会場 ⇄ 競技会場

IBC/MPCをハブとしたハブ&スポーク方式により、各会場の地区へは専用バスを運行していく。なお、オリンピックスタジアムパークとパレス・クラスターなど、会場のある地区同士が近いものの、IBC/MPCからそれぞれ離れている場合などは、競技会場間の輸送サービスを提供する。

これらの取組により、メディア関係者がいつでも迅速、快適、かつ確実に移動できる環境を提供する。

14.4 縮尺と以下の所在地を示した最大A3版の地図(二つ折り、またはページ両開き)を提出してください。

- ・ IBC
- ・ MPC
- ・ メディア向け宿泊施設
- ・ メディア関係者の輸送
- ・ 全競技会場
- ・ オリンピック選手村

便利な場所にあるメディア関連施設

(地図261-262ページを参照。)

14.5 放送局もしくはOBOとそのスタッフは、制作物や機材類に対する課税など、放送業務に対して従量税を課税されるのが普通ですか。説明してください。

放送業務に対する固有の課税

日本においては、放送業務に対する固有の課税はない。



14.4 メディアコンセプト地図

ヘリテッジゾーン

- | | |
|---------|------------------------|
| 1 開・閉会式 | 3 ハンドボール |
| 陸上競技 | 4 柔道 |
| サッカー | 5 自転車競技 (ロード・レース スタート) |
| ラグビー | 6 ウェイトリフティング |
| 2 卓球 | 7 ボクシング |

東京ベイゾーン

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 8 バレーボール | 19 ボート |
| 9 自転車競技 (BMX) | カヌー (スプリント) |
| 10 自転車競技 (トラック・レース) | 20 自転車競技 (マウンテンバイク) |
| 11 体操 (体操) | 21 セーリング |
| 12 テニス | 22 カヌー (スラローム) |
| 13 トライアスロン | 23 バドミントン |
| 水泳 (マラソン 10km) | 24 バスケットボール |
| 14 ビーチバレーボール | 25 アーチェリー |
| 15 レスリング | 26 馬術 (障害馬術) |
| 16 フェンシング | 馬術 (馬場馬術) |
| 17 ホッケー | 27 水泳 (競泳) |
| 18 馬術 (総合馬術) | 28 水泳 (水球) |
| | 29 水泳 (飛込) |
| | 30 水泳 (シンクロナイズドスイミング) |

その他

- | | |
|-----------------------|---------|
| 29 近代五種 (フェンシング) | 33 ゴルフ |
| 30 サッカー | 34 サッカー |
| 近代五種 (水泳、馬術、ランニング、射撃) | 35 サッカー |
| 31 自転車競技 (ロードレース ゴール) | 36 サッカー |
| 32 射撃 | 37 サッカー |

- | | |
|-----------------------------|--------------|
| OV 選手村 | 00 主要メディアホテル |
| IBC/MPC 国際放送センター/メインプレスセンター | 00 既存ホテル |
| | 00 競技会場 |

